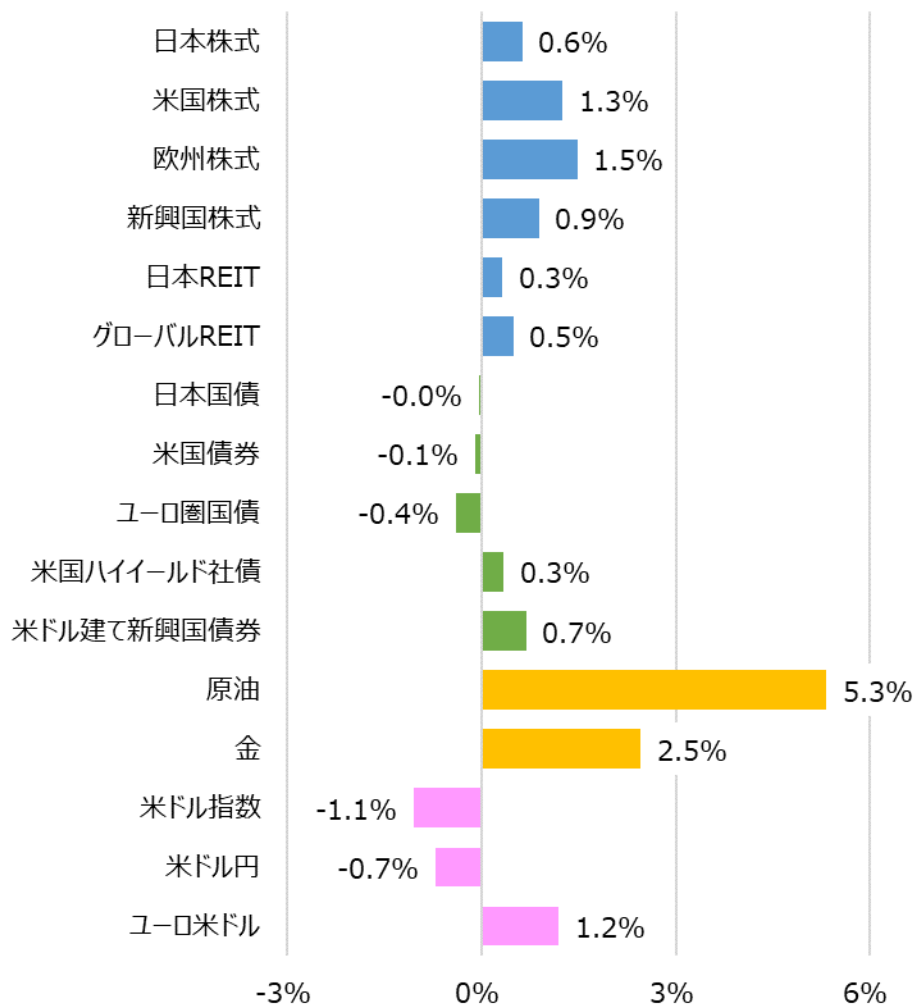




# Weekly Market Review

期間：2020年12月14日～12月18日



## 【日本株式】

新型コロナウイルスのワクチン普及への期待が相場を支えました。日銀が公表した**大企業製造業の業況判断指数は2四半期連続で改善**し、企業景況感が回復基調にあることを示しました。一方、全国の死者数や重症患者数は過去最多を記録し、東京都では入院患者数の増加を受け、医療提供体制の警戒レベルが最上位に引き上げられるなど、感染拡大に収束の兆しが見られず、重荷になりました。

## 【米国株式】

経済対策の協議進展やワクチン普及への期待が相場を押し上げ、**主要株価指数は最高値を更新**しました。米ファイザーのワクチンは14日に接種が開始されました。米モデルナのワクチンも18日に緊急使用が承認される見込みと伝えられました。超党派議員グループが公表した経済対策法案は与野党が合意しやすい内容と受け止められました。また、**パウエルFRB議長が低金利下での株高を正当化する発言**をしたことも買い安心感に繋がりました。

## 【欧州株式】

英首相と欧州委員長が**通商交渉の隔たりを埋めるために交渉をさらに継続**すると発表したことで、年内の合意期待が維持されました。**EU当局が米ファイザーのワクチン使用を21日にも承認し、年内に接種が開始される見通し**となったことや、ユーロ圏とドイツの購買担当者景気指数（PMI）、ドイツのIFO企業景況感指数の改善も好感されました。一方、ドイツや英国、イタリアなどでより厳しい行動規制が導入され、上値が抑えられました。

## 【新興国株式】

**中国の鉱工業生産や小売売上高などの経済指標が総じて好調**だったことやワクチン普及への期待が相場を押し上げました。中国企業その他、ワクチンを共同購入する国際的枠組み「COVAX」への参加手続きの完了を発表した**南アフリカ企業**などがリターンに貢献しました。一方、新規感染者数が高止まりしている韓国が軟調でした。

## 【日本REIT】

経済正常化への期待から底堅い動きでした。リテール、オフィス、物流REITがリターンに貢献する一方、住宅用REITが軟調でした。

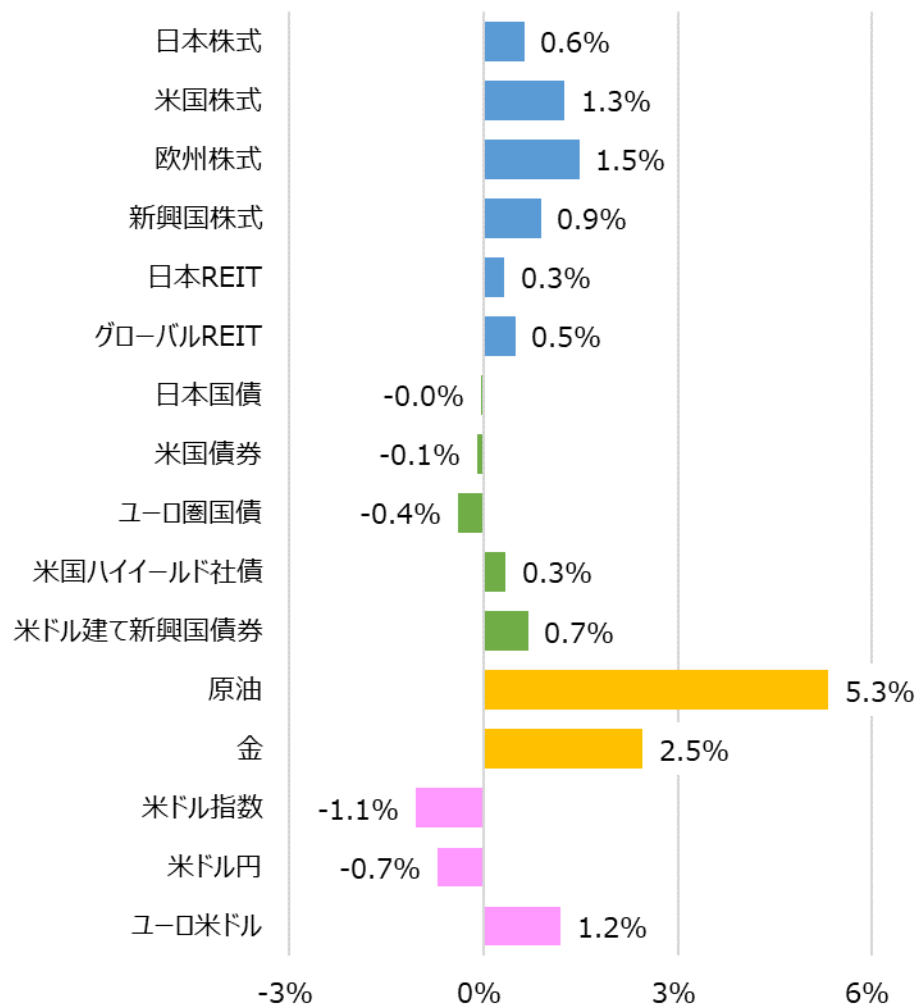
## 【グローバルREIT】

**英国やシンガポール、米国などが牽引役**となりました。英国では製造業PMIが堅調な伸びを示したことが好感され、物流REITなどの貢献度が高くなりました。米国でも物流REITが堅調でしたが、住宅用やリテール、オフィスREITが軟調でした。



# Weekly Market Review

期間：2020年12月14日～12月18日



## 【日本国債】

ワクチン普及への期待や日銀短観の景況感改善が重荷でしたが、15日に閣議決定された第3次補正予算案で、入札を通じた市中の国債発行額が増額されなかったことなどが買い安心感に繋がりました。日銀政策決定会合では、企業の資金繰り支援策の延長が決定され、政策金利や量的緩和規模などは維持されました。

## 【米国債券】

行動規制の強化や弱い経済指標などが下値を支えました。ニューヨーク連銀製造業景況感指数や小売売上高、新規失業保険申請件数などが軟調な結果でした。連邦公開市場委員会（FOMC）ではフォワード・ガイダンスの強化が図られ、「雇用の最大化と物価安定という目標達成にかなりの進展があるまで量的緩和を継続する」と声明文に明記されました。経済・政策金利見通しでは2023年末までゼロ金利が維持されるとの予測が中央値となりました。

## 【ユーロ圏国債】

英EU間の通商協定が合意に至るとの観測からユーロ圏中核国債が軟調に推移する一方、周辺国債は底堅い動きでした。EUでも早期にワクチン接種が開始されるとの期待が高まったことや、PMIの改善などが安全資産需要を減退させました。英中央銀行は政策の現状維持を決定し、通商交渉で合意に至らなければ追加緩和に踏み切る可能性を示唆しました。

## 【米国ハイイールド社債】

原油高からエネルギーセクターが、ワクチン普及による経済正常化への期待から消費セクターが引き続き買われました。

## 【新興国債券（米ドル建て）】

引き続き資金が流入しました。トルコやメキシコの貢献度が高くなる一方、格下げされたスリランカなどが軟調でした。トルコはロシア製ミサイルの導入を巡り米国の制裁対象となりましたが、市場では想定より緩やかな措置と受け止められました。

## 【コモディティ（金・原油）】

金は、米名目長期金利の上昇幅以上に市場の期待インフレ率が伸びたことで実質長期金利が低下し、金利の付かない資産というデメリットが薄れました。米ドル安も追い風でした。原油は、経済正常化にともなう需要回復期待や、米原油在庫の減少などが好材料視されました。

## 【米ドル指数】

英EU間の通商交渉の妥結期待からユーロと英ポンドが買われ、逃避需要の減退から米ドルが売られました。米国の緩和政策長期化観測も米ドル売りを促しました。



## 当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社※が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

※2021年3月8日付で商号を「PayPayアセットマネジメント株式会社」に変更する予定です。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。また、新興国通貨とはMSCI新興国通貨指数（対米ドル）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：S&P GSCI原油エクセスリターン指数（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ